

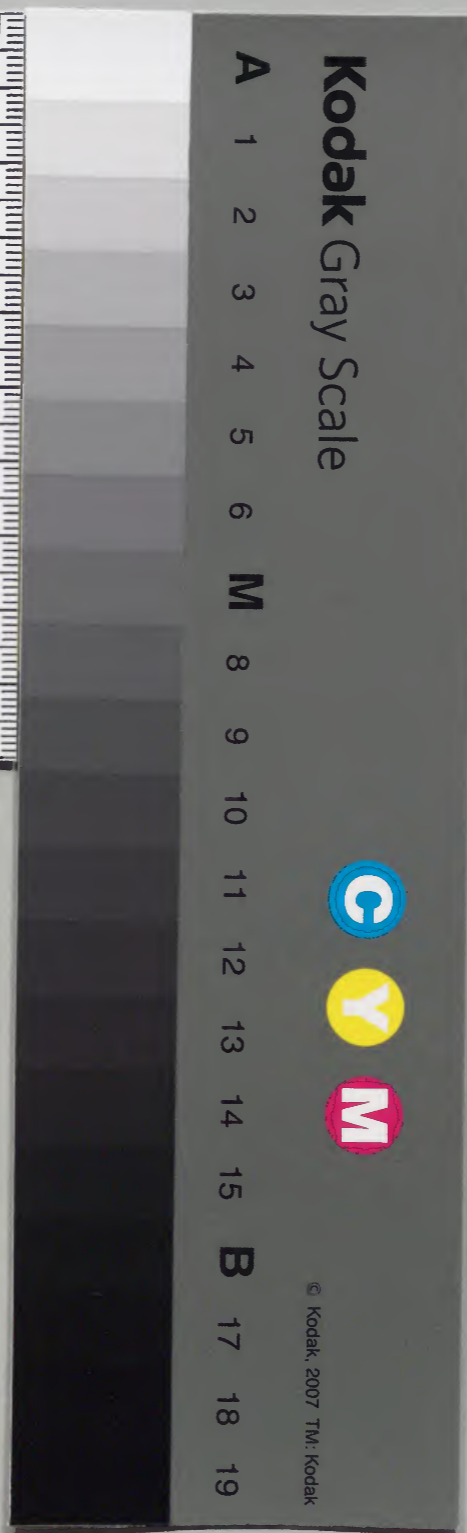
大樽盛典

百三十

和書門類		二七八八二號	八五函	一九九冊
------	--	--------	-----	------

內閣文庫	和書類	二七八八二號	八五函	一九九冊
------	-----	--------	-----	------

內閣文庫	
番號	和 27882
冊數	199 (132)
函號	153 225



大行藏具卷之百二十

目錄

一 禮成ノ事

大猷盛典卷之百二十

目錄

一 御成之部

淺草文庫



大將盛典卷之百二十
成之部

享保十一丙午年三月廿七日前夜子中刻小金為沙鹿

將此為 成亥中刻 還所出供大久保伏所戸田肥前

水道筋大手より西國橋迄前より通西國橋より

沙上場より沙船に此為 石大川通小菅 所上場より

此為 上 按此段は是より騎馬並歩行其外亦供あり騎馬并歩行亦供に部に出る俗を云々下再い各也 新宿通

松戸船橋 通所松戸宿より 右小金中野牧所將

場は張為 成

柳堂日
次記

享保十一丙午年三月廿七日今曉丑上刻浪出風呂屋口清

羽織 出御二九銅河通は為 成西國橋より舟船後瀬

川水戸橋より 舟上り松戸 舟小休は為 へ 按て於て舟小休所西國八徒頭

神保源五九橋の担共松戸町西國八の先手島居
控より助担共より諸西國八の部係をえし 走より小金 舟立場

舟鹿狩歩行
列日記抄

同年同月同日

歩道筋

大手より 酒井雅樂頭屋敷前 照柵原式部大輔

屋敷茶 按て於て今小笠原大膳大吏屋敷より 松平千次郎 按て於て後伊豫守 屋

敷前常盤橋の門外九々本町大傳馬町通旅

籠町通油町通塩町横山町三町目より 右は

吉川町西國橋より 舟上り場より 舟船は為

召大川通小菅 舟上り場より 舟上 按て於て舟上り

道筋八選所の部より

内徒方
萬年記

享保十一丙午年三月廿七日

一 御成明六時 松戸 御小休所は江為 へまゝり

小金西場は五時以

按此は御遊獵細記
已刻とあり是等

は為 へ八半

時以松戸 御小休所は 御歩行は七時以は為

へ

小普清
方尚書

○寛政七乙卯年三月五日

御當日前夜四ッ時御供拵廻壇所橋際まで

御馬交々兩國御船近 御歩行は江為 成は

將軍様御羽織にセイコ令と葵文字横に織入

御裾廻葵からまき御立附 御は江遊 御後

令はさむとい 御差江遊は 回安極一ッ橋極

御供御船より 御先は江由は外御供 御先

系は御釣内六ッ時より 千住廻亦は小橋は御

立江成は江戸 御成筋ハ平生遠 御成同振

西國廣小路より橋迄高張り一戸

小金原内
鹿将之記

○寛政七乙卯年二月廿八日

小金
清道筋

大手山より酒井雅樂頭屋敷照小笠原右近将監
屋敷前松平城前より屋敷前常盤橋山外右本
町大傳馬町通該翁町通油町通鹽町横山町
三町目より右は古川町西國橋より 御立場

山船之記為 石大川通綾瀬川水戸橋 御立場
より記為 上上下下葉村龜有村新宿仮橋
清波新宿村金町村松戸船橋 清波越同
不 清小休支より和名谷村金々作陣屋前
子和清水山林下通中ノ牧 御立場記為成
清将相湫 内膳所同所 御立場 還御
元々山道筋松戸 清小休支より 御成山道
筋之通

二月廿八日

内使番内書内徒方前年記小金原内鹿将之記但一
内徒方前年記ハ内同付九乞勘九達トシ

○寛政七乙卯年三月五日

小金原内鹿将 御成

一前夜九ツ時ニ御供揃ニ水戸橋 御上ノ場

暁七時 御着船水戸橋通中川新宿辰橋

御渡令町村内番不前ニ御挑灯引ケ利根川

松戸船橋 御渡松戸臺 御小休ハ六半時

為入 御橋豫有之同不五半時以 出御松

戸新田金ケ作陣屋前通ノ五助木戸子前去子

六拾間切抜ニ御時 御着同不ノ御行列終リ

小金ケ原内番方屯不 御巡見有之

内使番
内書

○寛政七乙卯年三月

見か
内小姓
内小納戸

駿河守

日向守

小金

御成一通心將

同役に違ふ

一 御供揃夜九時

一 五半時伊豆守殿書雲守殿遠江守殿 御城と

水立引續 御先は若年寄元側元 御城

と水立主膳正も同時水立し事

一 御挨拶教九時と三寸茶以出九時 御城に連

相心得し事

一 清風呂屋口より清玄冥前大寺常盤橋内本町

通兩國橋上より 御召場より 御乗船

但 御先船おける旨向井將監中少の間水

船おける旨入 御聽沙船おける松將監に達し

水供大勢右奥向水供船別に各艘おける事

一 綾瀬より小川沙座に 御召場有し事

但 修羅船に 御上り遊走より小川沙座に

注為 石小奉一夜分在右之通

一 水戸橋 御上之場之注為 上小奉

但此供も多敷分其上場扱之場不在例通

之供採兼混雜致之付此目付 御上

場之奉之宜昔此中少小答之小間頭取此迎兼

之申上之遊 御上之小奉

一 騎馬の供之者此側之注為 石小其者下馬

致茲越供無之騎馬供連共人馬之矢張列

之場不之不遠其俣茲越之振面之至即可付

公附可申達奉之尤奥向供無之騎馬之勿備供

連騎馬共下馬以每一步行之有矢張行列之通相

越可申奉

一 御片馬之注為 石小前騎馬之此側之注為 石小

之供無之騎馬之其俣茲越供連騎馬之供

之者行列之不之其俣茲在散不申之振可申付

通小奉

一新宿渡場此處為 通御仮橋掛中

但御用意として右仮橋より川下の方へ棧

橋より 御石場出来舟船相廻り有之

事

一松戸渡場と船橋掛渡有之右船橋と此遊

通御事

但御用意として船橋より川下へ 御石場

出来是亦舟船相廻り有之

一右船場と渡り登程松戸町入口下馬所有之間

公渡可致下馬事

一右下馬所先 御九の方より 御先若年寄

此側航 御目見有之

一右下馬所より右に航為 成一町程行水行列色

間さの間水納戸 御先立相心得事

一吏より九に航為 成松戸臺に 御上り口町目

坂下より伊豆寺殿 御目見有之吏より若年寄

礼之先立法供可致事

一松戶臺 御小休之為 成誓 御休息之

遊走之 御將法裝束之為 石事

但一統赤飯之事

御遠眼鏡可遣事

一御行列立宣旨其目付中聞之答之其後相伺也

めり中其供宣旨其目付中聞其目付 御小

休之□ 御目通之と之通 御右之方之在之

両山番差係在 御跡之引連之供致事

但目付 御目通係通之儀可入 御聽事

一御小休 御行列書之通

一御由郷校之 御由之引續之別帳之供連之

白紙成紙之事

一御場入 御左右之布衣以上 御目見仕相之

白布、馬上仕吏、持場之係越事

一上之生之所之 御馬之為之苗 御巡見之行列

此供立直一宣敷ハクハク目付ハクハク抄公宣敷音ハクハク
上直ニ 御巡見江遊ハクハク事一

奥向
扣

○寛政七始ハクハク一始生四日乃秋あきふ人下つさ
此出く此の糸一 御也ハクハク替させ始ハクハクんて
絲ハクハク之ハクハクつハクハクもハクハクもハクハク 成ハクハクをハクハクおハクハクくハクハク海ハクハク中ハクハク内ハクハク弁ハクハク始
此供乃人々あきくハクハク一やハクハクりハクハク火ハクハクさハクハクうハクハク一はハクハク此
昔此皇若年寄井伊兵部少輔堀田捨津与

此側本郷大和与林肥後与供草ハクハクとハクハク始ハクハク此ハクハク
寺ハクハクのハクハクちハクハクうハクハク人ハクハク々ハクハク出ハクハクりハクハクくハクハク深ハクハクまハクハクきハクハク持ハクハクの
よハクハク我ハクハク心ハクハクとハクハクもハクハクくハクハクりハクハクくハクハクくハクハクもハクハクのハクハクやハクハクりハクハクのハクハクふハクハクとハクハク
いハクハクんハクハクくハクハクのハクハク一ハクハク妻ハクハク始ハクハク秋ハクハクのハクハク屋ハクハク々ハクハクはハクハクあハクハクやハクハクのハクハク
とハクハクハハクハクのハクハク系ハクハクとハクハク一ハクハク我ハクハクいハクハクとハクハク火ハクハクとハクハク為ハクハクみハクハク所ハクハク之ハクハクらハクハクふハクハク大
手ハクハク始ハクハク津ハクハク橋ハクハクうハクハクらハクハクくハクハクくハクハクあハクハクまハクハクくハクハクハハクハク津ハクハク心ハクハクと
いハクハクくハクハク系ハクハク津ハクハク馬ハクハクとハクハク等ハクハクりハクハク常ハクハク盤ハクハク始ハクハクくハクハク一とハクハク過ハクハクせ
あハクハクまハクハクくハクハク本ハクハク町ハクハク始ハクハクわハクハクくハクハク一とハクハク始ハクハクくハクハク一始ハクハクあハクハクれハクハク人

の家居去々々々火々けけ祜年
此民姑女々々祜年た此の成りて
かきくつ々々祜年御年とおふり
あつゝ母姑時々々々母々國姑中々々河の
けつ々々御船々の勢姑々々供の人々
のふつ々船も教くはれり是々々々々々
もくのつおくま々々々々々々々々々々々
御船ハ大川御座の御船の志引りお出

ぢのふ立御々々々々々々々々々々々々
いさ御々あまき御寒さ々々々々川姑おを
てふのぢ先ハ空いとよ々々々星姑先々あさ
やふう々々々々々々々々々々々々々々々々
よら々々御人々のい々々々々々々々々々
あまのそ々々々々々々々々々々々々々々々
とてあまのあ々々々々々々々々々々々々
あまのそ々々々々々々々々々々々々々々々

兼平く調しおきりやや志しうて
太鼓の音波より起る歩の音と例えん
鯨船左右ならんかき揺手して舟船と
うちひく次くあまみの大船もよほが
これつまかの太鼓の四拍つゝぬうらたふ
もくしくのつてきみゆけ奥あつ音は
常に舟船も舟船の進退とよせもよ
河ほくかき舟あやまわの音はかく太鼓

うららけとらん舟船のよこのが
し成役とよ松井吉助とつゝ舟座の
舟船あにほれく小船のよみつゝ舟と
とつて太鼓とうとうと舟の既河岸花川戸
かともふふふはれまぐ堤の橋のたれつゝ
舟の音と右とんかき綾瀬つゝ舟と
舟の小河舟座と舟船の音と舟のぬぐ
くあつ音おつゝ舟の音と舟の橋

るく魚く久世丹後ちちくお中さく
きばといひーもしあつく船橋百間をるか
ちいふつふはもくおらもるさか船と二十
艘あり横さ海くはふきあはせその之に
あふらとよいとちあまのたの上中厚さ
三たけさあけ板とあはふらまらその
うく砂とまらふらにおきさくさくさく
さかうら陸地のさく丸をくおけまらう

そのまらに檜皮は縄とささく船橋さ
かりちとれ一ふさくの檜皮の細竹は
簣してはあふら浪風あくむさく檜
皮のまらあはくおのら火はうらま
事さやとてかくはうまらとむさく
岸はくく一むらつくさあやまら
らさくさくはくはくまらまら
皮繩の端とけれ柱の中さくさく

あり黒うまに川標と此船くましく引く
うり又常船とて右に浮のふ大船く
此船橋とつかまるとむましく日光の
御心く 御系詣のふ此粟橋くおきられ
うる船橋のふと先かうさふまふの河上の
ふくまを雪けのふとみくかうれおふと
あまてせとまは船とくくくはる
水の向あは海一ふ事一はまはかくおとまの

ふは造らまはるまは岸おれまはるま
松とう名垣ゆいとう志り一ゆれく松戸の
むまやまうまふ下馬おまふ一ゆり幕が
と引ゆるあうり右におま又丸のまふ
つまの路とこけく郊のまふおまゆま
いふくはくせはくまかふ山富と拂い清光
くかうれおま一ふまふおまははくまふ
まふまふの 御持のまは松平伴是守

その外は側加納遠江守平岡美濃守水小姓
組番頭高井主膳正 伊先くまのく居らる
うふむ之く入幸まのり水小納戸久保日向守
と三日よりそ兼ふ水邊に於て迎へ幸ふ朝
日くれ申すくさう好ゆらなるく 御前
水間よりそふくと田面見おらるる震已
ありきる之く花の梢にゆくと咲ふれ
鳥音おししけく轉るるく取らるる

朝ふのおよの夢ふ水邊のくも麓をか
く幕ふしけくしだふくふ休いつ
まのくふれきり恵比澤とよのめを接
湯桶場くしきうせきふし騎射歩射人々
とくより水供く従ふ田安一橋の西卿
水の内かきり世 伊のくはきりて
接ふ湯桶場くは辰井半 引く歩接り
あふの事よりわきく 作と影ふ

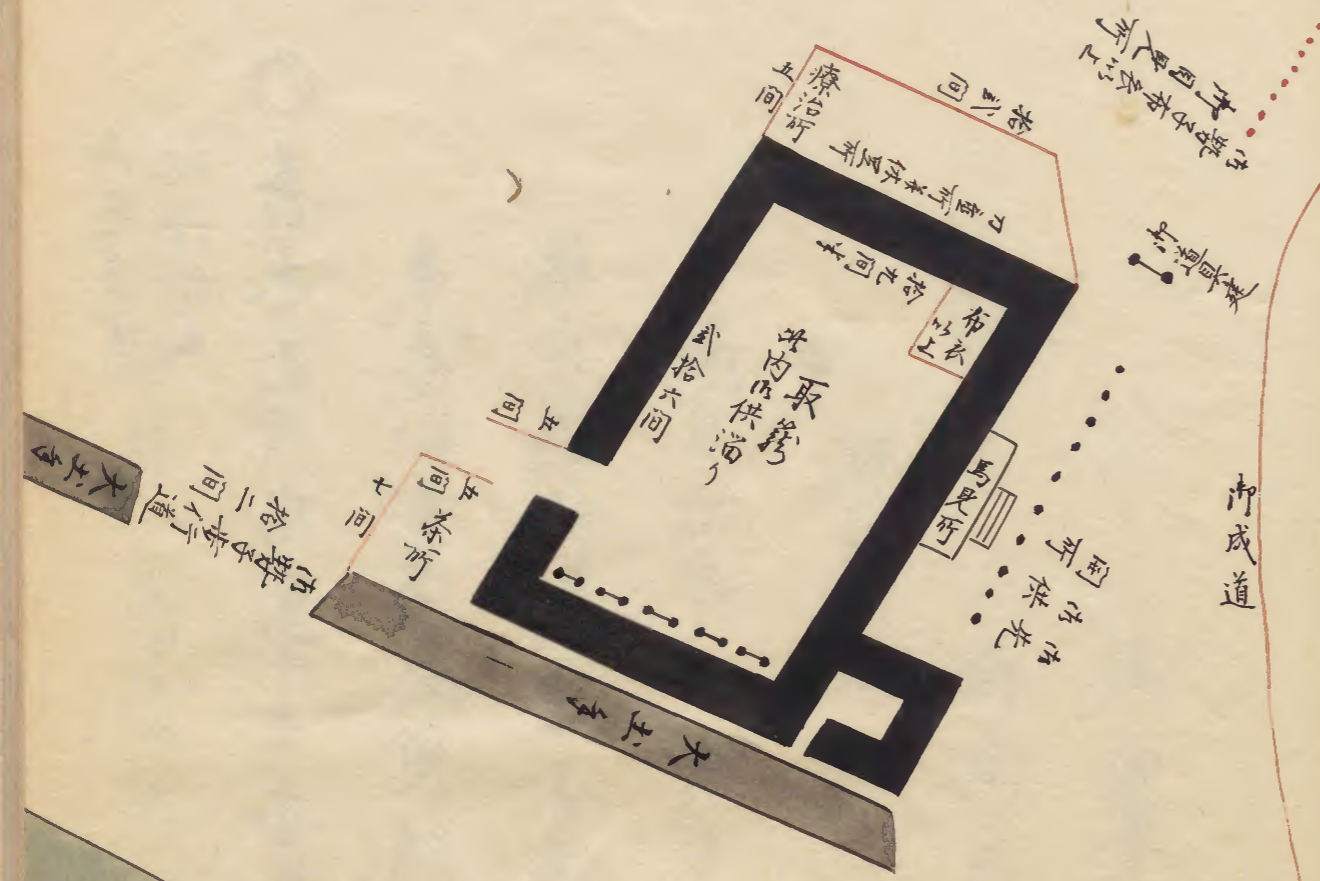
若年寄立花お雲お小納戸龜井後河守
とくせおくむう一帯お取牧の事一はあ
ひまふお先手岩本石見おかしくまの
まう右の堤おはさうくお持組のどのお所
らう丸の堤おはさうく馬見所あうその中
と御将場の入口おくまうくお番お組
頭左右に伏くおふまふまうく布衣を
上つこの人お特衣ソうくの紋お

花おふお先番お人おはまのらみくおま
ものソうくと羽折らうく一染くお
さう式おささうらお各組の人おあまお
一日二日のおまう五本木とくお
く入おくまうすく鐵炮とらお
まうまうらたう一番の具吹とらお
く二番くお屋とま三番く追駈騎馬
お人お南門まうお書院お小姓組

騎馬勢子兼出又番より先き以持百人組か
はきく立出六番れ具く大番書院小性
組れら勢子東の門より出組の人ハ御將場の
比折る残りおさたらハかく此所へ出む之等
く洋へ参れりしりしてまの備くといま
見めくらせ多まんして以供以用意との
以馬とく先移くその以番れ長くは皆洋へ
おろし 御おろしと兼通しておのく其不立

りて備と志れつゝ孫より以目付成瀬吉右衛
横田十部兵清深津主水以使番大久保甚兵清
屋代求馬曾根内近高カ勝程朝比奈孫太郎
徳永小膳大河内善兵清岩瀬式部荒木
十九諸一秋元隼人大久保矢九郎石谷周防
かもし洋へおろして同く 御おろしと兼
過追駈騎馬くくくその進退とおきては

寛政
御將記



小野子小屋場之歩行道

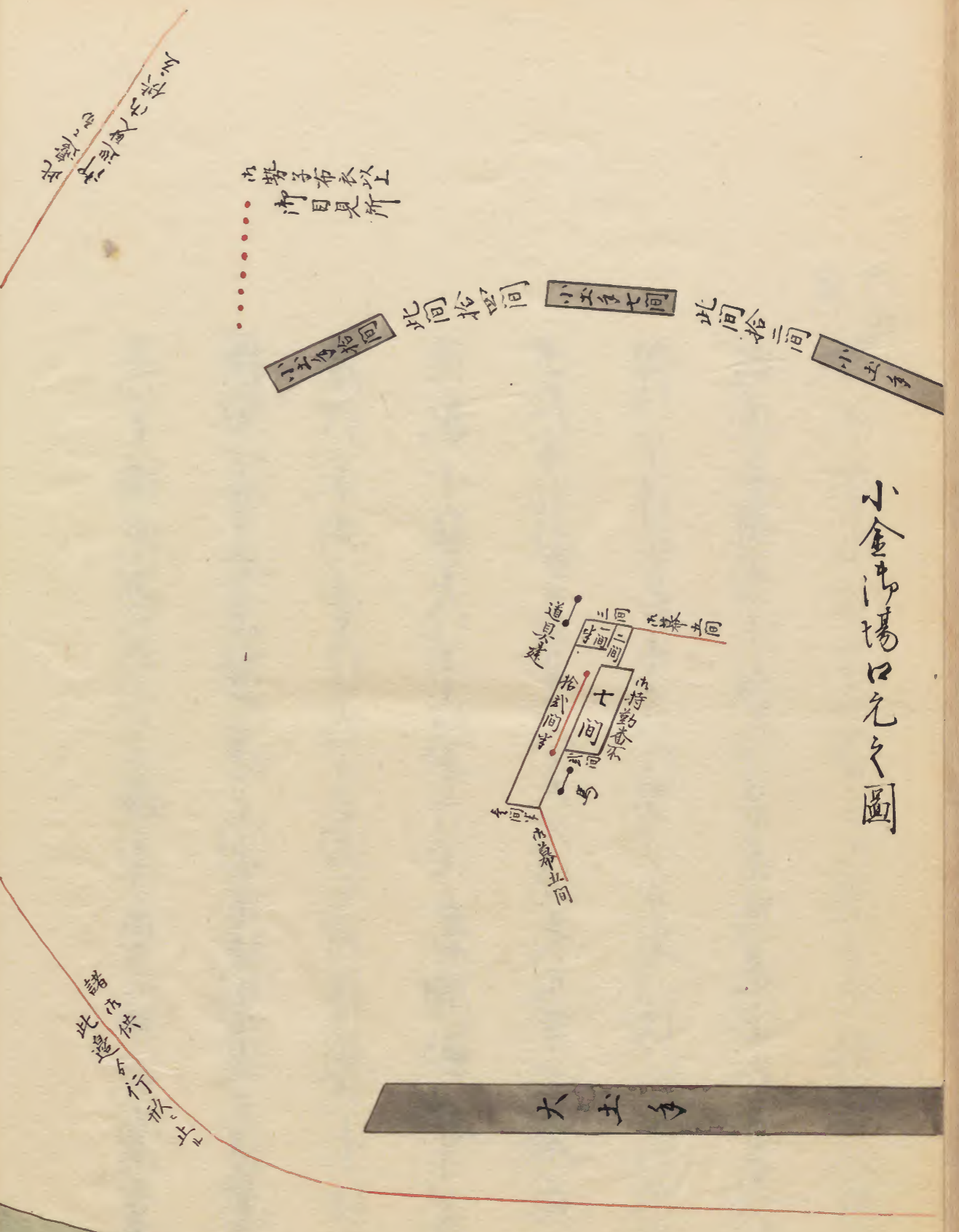
御立場小屋手迄貳百六拾五間

切按ノ御立場迄三百九間

朱引市幕張
惣間致凡各一合二間ノ積

切按六拾五間

小金湯場口元之圖



此諸店係
此邊行旅止

小野子布衣以上
御目見所

御先手方
記録附圖

○嘉永元戊申年十二月

来春小金湯鹿狩 御成之節御道筋別

紙之通伺相湫々音出小納戸頭取中聞々依々

申達々以上

申

十二月十日

石谷鐵之丞

遠心半九衛門

戸田隼人云反

仇々本近江守反

野間忠五郎反

御道筋

御風呂屋口々々大手御門通常盤橋御門

本町通兩國上々 御石場々々御船々々

呂大川通千住大橋際 御上場々々

上千住往還々々水戸道通々新宿仮橋松

戸船橋 御渡越

御小休

松戸宿

松龍寺

右相湫

御將場はた為

成

小金原

御膳所

御立場

還御道筋

御成越通

出先手組留書

出鷹匠方留書

○嘉永元戊申年十二月十一日

見か

新番頭元

出徒頭元

小十人頭元

御道筋

按多段の御道筋文面出先手
組留書等に同じく略以

右の通伺相湫の旨出小納戸頭取申聞に依り申

達以上

遠山守九郎門

石谷鐵之丞

十二月

出徒方

留書

○嘉永二己酉年二月廿九日達書

大寺山門より酒井雅樂頭屋敷前服小笠原
左京大夫屋敷前松平越前守屋敷前常盤
橋山門外左に本町大傳馬町通油町通鹽町
横山町三町目より右に吉川町西國橋上り
御石場より河船に記為 石大川通り千住大
橋際 御上り場より記為 上千住往還
右に水戸橋 御渡上下千葉村龜有村新
宿仮橋 御渡新宿村金町村松戸船橋

御渡越同所 御小休支より和名ヶ谷村金ヶ
作陣屋茶子和清水山林下通り中より牧
御立場に記為 成 御將相淋 御膳所
同所 御立場 還御元より水道筋松戸
御小休支より 御成水道筋より通り

右より通り山書付出中間記並し以上
此先手方記録此徒方留書但
此徒方留書より八三月十三日より係り

○嘉永二己酉年三月十七日

一 明日御鹿將 御成に付昼八時迄 御石湯

有之 大奥に召入 御寢所小性一統御供之

御小納戸迄御用捨る引相休中

但御錠口締り不中御苗守に御小納戸に御次

御後居

一 今晚御夜御引室觸等々

一 暮六時五寸廻り大奥に中込 御目覺支々り

例遠 御成に御運い相成中

○ 酉三月十八日

小金原御鹿將に付昨夜四時式寸廻り御後箱出御

野羽織去岡御長石御野袴御赤子當御色皆

召為 石御茶所前より 通御中

右大将御使蜻川相換り相勤 御目見

御真 上意有之御松戸内

右大将御使石河美濃召相勤 御目見相勤

同所より西瓦御用掛荒宴目九近將監及 御目見

相洲清風呂屋口ハ二九銅ハ通ハ大寺ハ通ハ
例清道本町通ハ西國上ハ 清上場ハ清船ハ為
正清船中ハ清丸并當清用意清吸物清酒
清上ハ清側廻ハ下ハ下等首之吏ハ十位
清上ハ場ハ為 上同所ハ清駕籠ハ為 正
新宿渡手ハ百姓家清尿管取建 清小用
有之吏ハ松戸 清小休松籠ハ為 入各程
清西郷標本郷丹後ハ及取合ハ 清對教吏

合取人取合阿部伊勢ハ敏ハ 清目見相洲
清丸ハ每當清吸物清酒 清上ハ清側廻ハ為
清下ハ下等首之暫ハ 清猶豫清供直阪
永井仇清ハ中上清陣羽織 清上ハ智清魔
清鞭 清指ハ遊清步行ハ白道書ハ通ハ為成
金ハ作陣屋先ハ清來馬 金目ハ為 正

奥向
扣

○嘉永二己酉年二月

見
内徒頭元
小十人頭元

小金原御鹿將之前御場入口近御行列書伺相謝
小間中達小内願覽早之返之者之依之中達以上

二月

遠心半九遠
石谷鐵之遊

内徒方
尚書

○嘉永二己酉年三月十八日

小金原御鹿將
御行列

御先拂組
内徒

内徒頭 同組頭式人

御先拂組
内徒

御先番組
内徒壹人

御先番組
内徒壹人

● 御馬

口附内口者
同以

御箱
内馬飼

口附之者組頭●

● 小十人式組

同組頭

● 小十人頭

同組頭

● 小十人頭

朱書
御供小十人頭四人兩國 御在場迄
十常遠 御成之節 通九右相
立千住 御上之場 各五人 引下
馬上之松戸 御小休迄 供仕同
小場入口迄 必宗 承九右相立千住
但 還御之節 同引

御長口 小十人

御側元

● 小小性

● 小小納戸

御

御駕務之者頭

若年寄元

● 小小性

● 小小納戸

中奥出番

御草履取

御腰物筒

小徒

奥坊主

中奥出番

御日傘役

御腰物筒

小徒

奥六尺

朱書
御供出目付四人兩國 御在場迄 十常遠 御成之節 通九右相立千住
御上之場 各五人 引下 馬上之松戸 御小休迄 供仕同 小場入口迄 必宗
承九右相立千住
但 還御之節 同引

● 御茶每當 御露次之者

御教寄屋坊主

御目付

御徒目付

御小人目付

御教寄屋坊主

御目付

御徒目付

御小人目付

小十人弓御用七人

弓持七人

御菓子每當

御直鎗 御錫鎗 御十文字 御拋鞘 御直鎗

御直鎗 御錫鎗 御十文字 御拋鞘 御直鎗

御直鎗 御錫鎗 御十文字 御拋鞘 御直鎗

御鐵炮

田付主計組

御貝掛箱

同

同

同

同

御玉簞笥

御手傘

御義箱

御戸箱

御雨覆

共力

御小性組共頭

同御番籠

御馬方

朱古
御番籠頭四圍 御在場近き常達 御成之前を通
左右相立十位 御上之場分多人を引下し馬正分松戸
御小休近供仕同不之御場入口迄必書九右相立十位
但 還御之節は同所

御馬方

御馬

御書院番組頭

同御番籠

御馬方

御箱

御馬飼

御馬

御箱

御馬飼

御馬

内鳥拭之者 内小人

皆箱 内馬飼

内石磐 内駕籠

内借馬

口附内中同 同

皆箱 内馬飼

内鳥持人 内小人

朱書 供分 騎馬 千位 内与場 内行列 相立松戸 内小体 内供仕 但 還内之節 同

内小性

内小納戸

供分 騎射

内供押

内徒押

供分 騎馬 内小性

同 内小納戸

供分 騎射

内供押

朱書 騎射之者 松戸 内小体 内供仕 但 還内之節 内与場 松戸 同

内番方

内小人押

内使之者

此間拾間程置

内徒目付

内小人押

内小人目付

朱書 内供揃分 一時 早 屋敷 内成 松戸 宿 倉 遠 幕 分 北 之 方 宿 内 成 合 不 送 廻 同 野 出 連 松戸 先 内 越 廻 同 野 出 残 還 内 後 帰 内 之 節 以 不 分 廻 同 野 出 成 内 連 内 積 入 口 之 残 内 供 内 迎 留 番 式 人 奥 坊 主 寺 人 六 尺 寺 人 内 立 場 跡 内 支 度 示 不 在 越 外 幸

右清門督殿

家老 寺人 坊主 五人 兩傘 藥箱 用人 式人 六尺 三人 白傘 同付 寺人 小性 五人 賄 六尺 寺人 床机 徒目付 寺人 迎留番 七人 茶 糸 寺人 草履 取 小人 同付 寺人 醫師 寺人 水 箆 笥 鎌 寺 寺人 小人 使 之 者 式人

朱書 松戸 内小体 内成 前 供 家 老 寺 人 用 人 式 人 小 性 三 人 迎 留 番 式 人 中 牧 内 場 入 口 之 内 供 石 同 到 右 之 外 供 寺 松 戸 宿 南 市 川 通 之 方 相 廻 一 重 内 跡 之 内 引 換 之 節 中 牧 上 内 出 場 入 口 之 残 内 積 入 口 之 残 内 供 内 迎 留 番 式 人 奥 坊 主 寺 人 六 尺 寺 人 内 立 場 跡 内 支 度 示 不 在 越 外 幸

朱書同列

刑部卿殿

供連同列

此間半町程置

供連騎馬

若年寄元

朱書同列

朱書
供連騎馬千位 市上場分表方に松戸迄
奥向と金と作近市列相立中
供連 但 還所と前も同列

同
市側胤

同
市目付

同
西市番組頭之内

同
市徒頭

同
小十人頭

供連騎馬

市小性

同

市小納戸

西市番押

市徒押

市徒目付 市使と者
市小人目付

此間半町程置

同

市小性

同

市小納戸

西市番押

市徒押

市小人押

侍

卓履取

鎧持

市小人押

同

同

同

此間三拾間程置

市小人押

同

同

同

内徒押 内小人押 侍 草履取 鎗持 馬

内小人押 同 同 同 同

内徒押 内小人押 同 同 同 同

合羽箆 内小人押

同 惣供

同 内小人押

内書院組苗書内使番
苗書内徒方苗書

○嘉永二己酉年三月

見
内徒頭元
小十人頭元

小金高鹿将 御成前内場入口与 御目見

儀別紙繪圖通伺相湊中依之中達以上

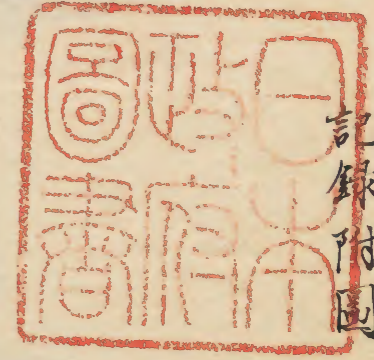
三月

遠山半九郎

石谷鐵之丞

内徒方
苗書

小金高場入口布衣以上 御目見場所繪圖



日知錄
附圖

